

夢の國ぶらじる丸披露

背景豪華な日亞親善風景展開

七つの海を乗り越えて美と科學「宮島」はいづれも調度品室内は國産品が山積されてゐる、児童室のモザイク壁畫もほゝえまし、端艇甲板は一段と華やかに、この第一甲板は全部一等で、前には(水面より四十呎)温及小品の獨奏がバーにてに絶好の「お肴を供する」、風のやうに運定の時間、水泳ブールには、セラノ街を通中、彼方より正面向の舞台にはグランドピアノの豪華船を一巡する、フリッスンが置れてある、左側の一隅には誠に豪華船の名にそむかない、タ風の壁画に調度、「その單順化」その單順化の如きは、正午前二時近く和氣藪々裡に散

日本汽船會社は、外人で

ヒラバツについてゐる。在西邦商字新聞社等々邦人、外人で

は門脇事務長の紹介で井上園子

船はばいである、後社交室に

正午前二時近く和氣藪々裡に散

ドボイスの無禮講を演じて

正午前二時近く和氣藪々裡に散

事、重廣武官、三本商セン支店長

及社員を始め西澤日會長、有水

元日會長、石川蔬菜組合長中瀬、ユーモアたつぶりの懷舊談

矢銀河農組合理事、賀集花井聯

合會長も記者に「種とりか」と笑

ひ乍らばくついてゐる。在西邦

翌午前二時近く和氣藪々裡に散

舟木忠吉氏は去る一日午後三時

現コレクティボに乗りソレル街

セラノ街を通中、彼方より

正午前二時近く和氣藪々裡に散

船主吉田敏彦(三鷹二〇仙)送料三

八〇仙(日本)の妻竹田敏彦(二鷹)

二〇仙(花)春雷(加藤武雄)二鷹

ビス(新怪談集)由井良太郎(三鷹)

電話二三九八七二

電話二三九八七二

五〇仙(日本)の妻竹田敏彦(二鷹)

二〇仙(花)春雷(加藤武雄)二鷹

八〇仙(日本)の妻竹田敏彦(二鷹)

二〇仙(花)春雷